

東京タワーとの思い出

中神祥臣（高校1 1期）

9月下旬に、城南高校同窓会役員という但し書きのついた、封書を受け取った。

驚いたことに、2010年に放送大学での私の面接授業「数学基礎」に出席して下さったという、永田尚之さんからの「航跡」への投稿依頼であった。

この思いがけない出会いをきっかけに昔を振り返って見ることにした。

私たちの学年は昭和31年入学で、地元の人以外は都電で「材木町」や「一ツ橋」の駅で乗り降りして通学をしていた。

ちょうど戦後の復興が軌道に乗り始め、テレビ放送も2,3年前に始まったばかりで、正門前の暗闇坂を少し上がった敷地には、新しく開業予定の「テレビ朝日」の建物が建ち、時代の変化が肌で感じられる時期でもあった。

私は専ら4番の都電で「一ツ橋」駅を利用していたので、麻布十番の「あべちゃん」にはテレビの人気番組「お笑い3人組」のメンバーが通ってくる話とか、「月光仮面」の本拠地が麻布十番裏地の住所になっていたりとか、この通学路であった商店街には懐かしい思いがある。

3年生になると教室も3階になり、窓から東京タワーが少しずつ高くなって行く様子が眺められた。

卒業間もない1958年12月24日にはタワーが完成し、夕方照明が点灯し始めたのを確認してから、10人ぐらいで学校から歩いて行き、そのままエレベーターを使わずに展望台に登った。

途中、階段に立ち止って眺めた綺麗な夜景と冷たい空気がかすかな記憶として残っている。

その後、大学を卒業して社会に出て周りを見回してみると、私たちは高校時代に素晴らしい先生方から教育を受けてきたんだなという思いを強くした。

私は3年生で男女混合クラスを選択したところ、担任は体育の田島更一郎先生であった。

背も高く人間味溢れる雰囲気のある先生で、女生徒からは圧倒的な人気があった。

ラグビー界でも知名度が高く、授業でもよくラグビーの試合をさせられた。

一度は「お前は小さくて動きやすいから」と大男が組むスクラムのセンターをさせられ、ボールは掻き出せなかったが、貴重な体験として思い出に残っている。

また、加納郁夫君（や故人の山岸敏晃君）達に誘われてお宅で「ミス島原」であった奥さまの手料理を、まだかわいいお子さん達と一緒にご馳走になったこともある。

先生は長崎県のご出身で、長崎国体が開かれる際に地元から声がかかり、その後はずっと地元の高校でお仕事を続けられていた。

私も2度ほど（最初は近野盛男君と）島原の口之津にあった先生のお宅にお邪魔させていただいたが、今でも、お宅の庭から遠くにあった天草の海を見下ろす風景と「唐行ゆきさん」の伝承話しは忘れられない。

その後、私たちも30代中頃になり、社会的にもゆとりもでてきたので、先生にお声をお掛けして、卒業後初めてのクラス会を開いた。

連絡の付かない人もいたが、30人を越える参加者があり、異口同音に自分たちの高校生活がいかにか素晴らしかったかを語り合い、語り足りない人は、夜の六本木の2次会、3次会へと流れた。

これ以降、近野君と奥野（清水）澄子さんが中心となって、毎年1回のクラス会が開かれるようになり、会も「田島会」と命名された。

先生はお酒の飲み方も豪快で、東京に出てこられるときは、ラグビー界の会合や、他の学年のクラス会もあり、掛け持ちでお忙しいご様子であった。

そのせいか晩年はペースメーカーを胸に埋め込む生活をされていたが、気質は昔のまま何時までも変わることはなかった。

残念なことに、2008年2月にお亡くなりになり、その2年後には奥さまも他界された。

クラス会はその後も続けられ、2010年の秋には自分たちが古希になったということで、記念に、紅葉の積翠寺温泉へ一泊旅行に出掛けた。

翌朝は息堰切って裏山の要害山に登り、武田不動尊の前で仲間が全員の記念写真を撮ってくれた。

今年は快晴の横浜赤レンガ館周辺を散策し、夕方から中華街で会合が開かれた。

瀬戸紀臣君のように遠方からの参加者もある。

男性の多くは昔の肩書が取れて只の人になっているが、女性にはまだ現役の「社長」や第二の人生に生き甲斐を見いだしている人など意気軒昂な人が多い。

この会は3年生のときたまたま4組になった人が中心に始められたが、学年が変わるときの組み換え前には同級であった人も多く、飛び入りの参加者もよくあるが、中村俊彦君や、最近見かけないが小池（田村）典子さんのように他の組からの常連もいる。

そこで、昭和34年（第11回）卒業の方は是非、近野盛雄君（〒108-0072 港区白金6-12-9）に連絡先を知らせ、この会へ参加して青春の思い出を共有す



る仲間との歓談を楽しんでいただきたい。

また、2010年末の夜には昔の仲間数人と50数年前を思い出しながら、お洒落にライトアップされている東京タワーへ行き、今度は長い行列を待ってエレベーターで展望台に昇ったところ、まだその上にも展望台があり、さらにエレベーターで昇り、こちらの展望台から周りの夜景を見渡した。

辺り一面高層建築が建ち並び、昔日の面影はなかったが、六本木ヒルズを手掛かりに、明るい光から取り残された一角を探して見ると、南山小学校や昔の高校の位置をなつかしく確認することができた。

平成 25 年 10 月 1 日